

## 第3回行政評価委員会

令和元年8月7日(水)  
午後6時30分から  
市役所4階大会議室

### 評価対象事務事業シート

| No. | 時間    | 担当課 | 事務事業名         | 判断理由 | ページ番号 |
|-----|-------|-----|---------------|------|-------|
| 1   | 18:40 | 市民課 | (国保) 保健衛生普及事業 | 委員選定 | 1     |
| 2   | 19:05 | 福祉課 | 社会福祉協議会事業     | 委員選定 | 5     |
| 3   | 19:30 | 福祉課 | 声の広報発行事業      | 委員選定 | 9     |
| 4   | 19:55 | 福祉課 | 生活困窮者自立支援事業   | 低評価  | 13    |

※ 審議の経過によって多少の時間変更が生じる場合があります。

事務事業の概要・計画 (PLAN)

|                |   |      |                   |      |                   |                |                     |
|----------------|---|------|-------------------|------|-------------------|----------------|---------------------|
| 事務事業名          | [7136] (国保)保健衛生普及事業   | 会計名称 | 国民健康保険特別会計 (事業勘定) |      | 担当課               | 市民課            |                     |
|                |   | 予算科目 | 5 款 1 項 1 目       | 事業番号 | 9707              | 所属長名           | 渡辺悦子                |
| 事業評価の有無        | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)  |      |                   |      | 担当責任者名            | 二宮誠二           |                     |
| 法令根拠等          | 伊予市国民健康保険条例   |      |                   |      | 実施期間              | 【開始】           | 平成 17 年度            |
| 総合計画での位置付け     | 健康福祉都市の創造<br>生涯にわたる健康づくり  |      |                   |      |                   | 【終了】           | 平成 年度(予定)<br>■ 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 医療費適正化事業を推進し、医療費を抑制することで国保制度の持続的、安定的な運営体制を保持する。また、国保被保険者が安心して医療を受けりことができ、健康寿命の延伸を図る役割を担う。   |      |                   |      | 事業の対象             | 国保被保険者及び保険医療機関 |                     |
| 事業の目的          | 保険医療機関には、診療報酬明細書及び薬剤報酬明細書の審査を行い、被保険者には、医療費通知やジェネリック利用差額通知を送付し、医療費の適正化を図る。   |      |                   |      | 昨年度の課題            |                |                     |
| 事業の内容 (整備内容)   | 審査支払機関 (国保連合会) によるレセプトの一次点検 (一次審査) 後、疑義のある場合に二次点検 (再審査) を行い、保険医療機関から医療費の請求誤りが無いか審査する。国保被保険者には、医療費通知やジェネリック利用差額通知を送付し、医療機関への適正受診に対する啓発を強化する。また、被保険者証や保険税通知と一緒に国保制度に関するちらし等を送付し、広報活動を充実させる。 |      |                   |      | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 |                |                     |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円)       |   |  |                           |        |       |       | 事業活動の実績 (活動指標) |       |         |         |         |         |  |
|----------------------|---|--|---------------------------|--------|-------|-------|----------------|-------|---------|---------|---------|---------|--|
| 項目                   | 前年度決算   | 当初予算額  | 補正予算額                     | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額   | 項目             | 単位    | 29 年度実績 | 30 年度予定 | 9月末の実績  | 30 年度実績 |  |
| 直接事業費                | 5,093   | 6,004  | 0                         | 0      | 0     | 5,196 |                |       |         |         |         |         |  |
| 財源内訳                 | 国庫支出金   | 23   | 0                         | 0      | 0     | 0     | レセプト二次点検数      | 枚     | 1204    | 1200    | 572     | 1159    |  |
|                      | 県支出金  | 4,068  | 2,807                     | 0      | 0     | 5,196 |                |       |         |         |         |         |  |
|                      | 地方債   |  | 0                         | 0      | 0     | 0     |                |       |         |         |         |         |  |
|                      | その他   |  | 0                         | 0      | 0     | 0     | ジェネリック利用差額通知   | 件     | 1101    | 2200    | 720     | 2540    |  |
| 一般財源                 | 1,002   | 3,197  | 0                         | 0      | 0     |       |                |       |         |         |         |         |  |
| 職員の人工 (にんく) 数        | 0.26  | 0.20   |                           |        |       | 0.20  |                |       |         |         |         |         |  |
| 1人工当たりの人件費単価         | 8,017   | 7,982  |                           |        |       | 7,982 | 医療費通知          | 件     | 33399   | 34000   | 17818   | 31368   |  |
| ※ 直接事業費+人件費          | 7,177   | 7,600  |                           |        |       | 6,792 |                |       |         |         |         |         |  |
| 主な実施主体               | 直接事業費   |  | 実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) |        |       |       |                |       |         |         |         |         |  |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) |   |  |                           |        | 31 年度 | 32 年度 | 33 年度          | 34 年度 | 35 年度   | 5年間の合計  |         |         |  |
|                      |   |  |                           |        | 6,000 | 6,000 | 6,000          | 6,000 | 6,000   | 30,000  |         |         |  |
| 成果指標                 | 指標  | 後発医薬品利用率 (数量シェア) = 後発医薬品 / (後発医薬品のある先発医薬品 + 後発医薬品)                                     |                           |        |       | 単位    | 区分年度           | 29 年度 | 30 年度   | 31 年度   | 目標 毎 年度 |         |  |
|                      |   |  |                           |        |       | %     | 目標             | 70    | 70      | 72      | 75      |         |  |
|                      | 指標設定の考え方  | 医療費を抑制する手段として、後発医薬品の利用差額通知を送付することで、実際に被保険者が切り替えた結果等が医療費請求の過程でデータ化できるため後発医薬品の利用率を指標とする。 |                           |        |       | ⇒     | 実績             | 68    | 71      |         |         |         |  |
| 指標で表せない効果            | 後発医薬品利用差額通知は、後発医薬品に切り替えることで200円以上の差額が発生する被保険者を対象とし、切替効果が上がるよう年4回の実施により医療費の抑制につなげる。医療費通知は年7回実施し、医療機関で受診した際の費用額や一部負担金額及び医療機関名等情報を通知書に記載することで医療費の適正化につなげる。 |  |                           |        |       |       |                |       |         |         |         |         |  |

事務事業評価 (CHECK)

| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) |              | 後発医薬品利用差額通知では、前年度に引き続き年4回の実施とした。前年度は、差額が「100円」以上で、かつ年度内に一度差額通知を送付している場合は2回目以降は通知除外としたが、30年度は差額単価を「200円」以上とし、通知済みであっても該当していれば通知することに見直し、切替え促進を行なっている。1回目の実施(8月通知)では、対象者720人(退職含む)に対し通知した。 |              |                       |  |                       |   |   |  |   |  |   |  |   |        |   |  |
|---------------------------------|--------------|--|--------------|-----------------------|--|-----------------------|---|---|--|---|--|---|--|---|--------|---|--|
| 事業                              | 自己判定(担当責任者)  | 妥当性  | 目的の妥当性       | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。<br>概ね、施策の目的に沿った事業である。   | 5                     | 合計点が  | S | 事業成果・工夫した点   | 後発医薬品利用のシェア率が上昇したのは、後発医薬品差額通知及び医療費通知に一因がある。そのため、医療費適正化を図る上で引き続き実施していく必要がある。<br>●平成31年1月調剤分における後発医薬品医療数量シェア率は71.4%。<br>●平成30年7月調剤分(平成30年8月通知)における一般対象者の切替状況は、平成31年1月調剤分(平成31年2月審査)までで、延べ409人の切替え、うち、平成31年1月調剤分の1ヶ月の切替の実績は、97人である。                                |  |   |  |   |        |   |  |
|                                 |              |  | 社会情勢等への対応    | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。<br>社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。           | 5                     |   |   |  |   | 14~15: S<br>10~13: A<br>8~9: B<br>5~7: C<br>3~4: D |   |  |   |        |   |  |
|                                 |              |  | 市の関与の妥当性     | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。                      | 5                     |   |   |  |   |  |   |  |   |        |   |  |
|                                 |              | 有効性  | 事業の効果        | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。            | 4                     | 合計点が  | A |  |   |  |   |  |   |        |   |  |
|                                 |              |  | 成果向上の可能性     | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。                   | 4                     |   |   |  |   | 14~15: S<br>10~13: A<br>8~9: B<br>5~7: C<br>3~4: D |   |  |   |        |   |  |
|                                 |              |  | 施策への貢献度      | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。<br>施策推進に向け、効果を認めることができる。                                  | 5                     |   |   |  |   |  |   |  |   |        |   |  |
|                                 |              | 効率性  | 手段の最適性       | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に良活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。                                   | 4                     | 合計点が  | A |  |   | 事業の苦勞した点・課題  | 後発医薬品差額通知書の作成は、連合会への共同処理委託であるため、作成単価は、他市町の通知件数を含めた合計件数で決定することになる。30年度は前年度実績により予定作成単価を決定し実施していたが、連合会からの年度途中における県内全体の速報値から当初の計画単価では、予算内におさまらない可能性が発生した。3回目以降の差額単価を見直しをして対応したが、次年度は、年間通じて同額の差額で実施できるよう計画する必要がある。 |  |   |        |   |  |
|                                 |              |  | コスト効率        | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。<br>投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。<br>コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 4                     |   |   |  |   |  |   | 14~15: S<br>10~13: A<br>8~9: B<br>5~7: C<br>3~4: D |   |        |   |  |
|                                 |              |  | 市民(受益者)負担の適正 | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。  | 4                     |   |   |  |   |  |   |  |   |        |   |  |
|                                 |              | の  | 一次判定(所属長)    | 妥当性                   | 目的の妥当性   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。<br>概ね、施策の目的に沿った事業である。  | 5 |  |   |  |   | 合計点が   | S | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。<br><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する<br><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する<br>(判断の理由)<br>国保制度運営のため、保健事業及び医療費適正化事業を推進し、健康寿命の延伸と医療費削減を実現するため継続して事業を実施する必要がある。 |  |
|                                 |              |  |              |                       | 社会情勢等への対応  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。<br>社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。<br>社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 | 5 |  |   |  |   |  |   |        |   | 14~15: S<br>10~13: A<br>8~9: B<br>5~7: C<br>3~4: D |
|                                 |              |  |              |                       | 市の関与の妥当性   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。   | 5 |  |   |  |   |  |   |        |   |  |
| 有効性                             | 事業の効果        |  |              | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。            | 5                     | 合計点が  | S |  |   |  |   |  |   |        |   |  |
|                                 | 成果向上の可能性     |  |              | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。                   | 4                     |   |   | 14~15: S<br>10~13: A<br>8~9: B<br>5~7: C<br>3~4: D |   |  |   |  |   |        |   |  |
|                                 | 施策への貢献度      |  |              | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。<br>施策推進に向け、効果を認めることができる。                                  | 5                     |   |   |  |   |  |   |  |   |        |   |  |
| 効率性                             | 手段の最適性       |  |              | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に良活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。                                   | 4                     | 合計点が  | A | 所属長の課題認識   | 医療保険財政の健全化のため、被保険者に対し医療費適正化事業を推進する必要がある。ジェネリック医薬品の使用促進の効果は、医療費の削減につながり、また、被保険者としても患者負担の軽減が実感できることにある。被保険者からの照会に対応するため、各市町が費用を分担し、専用のコールセンターを設置している。また、2ヶ月ごとに送付している医療費通知は、医療費控除に使用できる文面に変更され医療情報の確認がわかりやすくなった。このように、被保険者が医療や健康に関心を持ち、適正受診に繋がるような啓発事業に重点をおく必要がある。 |  |   |  |   |        |   |  |
|                                 | コスト効率        |  |              | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。<br>投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。<br>コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 4                     |   |   |  |   |  |   | 14~15: S<br>10~13: A<br>8~9: B<br>5~7: C<br>3~4: D |   |        |   |  |
|                                 | 市民(受益者)負担の適正 |  |              | 5<br>4<br>3<br>2<br>1 | 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。  | 4                     |   |   |  |   |  |   |  |   |        |   |  |

|           |      |                                     |   |  |
|-----------|------|-------------------------------------|---|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。  | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。  |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。   |  |
|           |      | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。<br>H30行政評価委員会委員抽出事業<br>今後も増加が予想される医療費抑制のため必要な事業であり、事業継続と判断する。 |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。   |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。   |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。  |  |

|            |      |       |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
|            |      |       |

今後の方向性 (ACTION)

|                            |                          |                  |       |
|----------------------------|--------------------------|------------------|-------|
| の<br>最<br>終<br>判<br>断<br>議 | 事業の方向性                   |                  | コメント欄 |
|                            | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。        |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。       |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。        |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。     |       |



事務事業の概要・計画 (PLAN)

|                |   |      |             |                   |                                |       |   |
|----------------|---|------|-------------|-------------------|--------------------------------|-------|---|
| 事務事業名          | 社会福祉協議会事業   | 会計名称 | 一般会計        |                   | 担当課                            | 福祉課   |   |
|                |   | 予算科目 | 3 款 1 項 1 目 | 事業番号              | 840                            | 所属長名  | 泉一人   |
| 事業評価の有無        | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)                      |      |             |                   | 担当責任者名                         | 戸谷香代子 |   |
| 法令根拠等          | 社会福祉法第109条  |      |             |                   | 実施期間                           | 【開始】  | 平成 18 年度  |
| 総合計画での位置付け     | 健康福祉都市の創造<br>心の通った社会福祉の推進   |      |             |                   |                                | 【終了】  | 平成 年度(予定)<br><input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 伊予市社会福祉協議会が実施する地域福祉事業の活性化及び円滑な推進を図り、誰もが安心して自分らしく暮らしながら、相互に支えあう思いやりのある地域づくりに寄与する。                              |      |             | 事業の対象             | 伊予市社会福祉協議会 (社会福祉協議会の運営基盤となる市民) |       |   |
| 事業の目的          | 社会福祉に関する活動の活性化により地域福祉の推進を図る事を目的に設立された社会福祉協議会に対し、専門員の人件費補助並びに組織運営費の一部を補助し、福祉課題の解決に取り組み、福祉コミュニティづくりと地域福祉推進に努める。 |      |             | 昨年度の課題            |                                |       |   |
| 事業の内容 (整備内容)   | 地域福祉事業・福祉相談・ボランティア育成・援助事業   |      |             | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 |                                |       |   |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円)       |           |   |                          |        |        |        | 事業活動の実績 (活動指標) |        |         |         |         |         |
|----------------------|-----------|---|--------------------------|--------|--------|--------|----------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 項目                   | 前年度決算     | 当初予算額   | 補正予算額                    | 継続費その他 | 翌年度繰越  | 決算額    | 項目             | 単位     | 29 年度実績 | 30 年度予定 | 9月末の実績  | 30 年度実績 |
| 直接事業費                | 37,043    | 36,893  | 0                        | 0      | 0      | 36,893 | 法人運営事業費        | 千円     | 269     | 269     | 0       | 269     |
| 財源内訳                 |           |   |                          |        |        |        |                |        |         |         |         |         |
| 国庫支出金                |           | 0   | 0                        | 0      | 0      | 0      |                |        |         |         |         |         |
| 県支出金                 |           | 0   | 0                        | 0      | 0      | 0      |                |        |         |         |         |         |
| 地方債                  |           | 0   | 0                        | 0      | 0      | 0      |                |        |         |         |         |         |
| その他                  |           | 0   | 0                        | 0      | 0      | 0      | 福祉活動専門員設置事業    | 千円     | 34328   | 33325   | 0       | 33325   |
| 一般財源                 | 37,043    | 36,893  | 0                        | 0      | 0      | 36,893 |                |        |         |         |         |         |
| 職員の人工(にんく)数          | 0.04      | 0.50  |                          |        |        | 0.50   | 民生児童委員協議会事業費   | 千円     | 573     | 532     | 0       | 532     |
| 1人工当たりの人件費単価         | 8,017     | 7,982   |                          |        |        | 7,982  |                |        |         |         |         |         |
| ※ 直接事業費+人件費          | 37,364    | 40,884  |                          |        |        | 40,884 | 法人後見・サービス利用援助  | 千円     | 1873    | 2767    | 0       | 2767    |
| 主な実施主体               | 直接実施      |   | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) |        | 補助金    |        |                |        |         |         |         |         |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) |           |   |                          |        | 31 年度  | 32 年度  | 33 年度          | 34 年度  | 35 年度   | 5年間の合計  |         |         |
|                      |           |   |                          |        | 36,893 | 36,893 | 36,893         | 36,893 | 36,893  | 184,465 |         |         |
| 成果指標                 | 指標        | 地域福祉活動に係る各種事業への参加者数   |                          |        | 単位     | 人      | 区分年度           | 29 年度  | 30 年度   | 31 年度   | 目標 毎 年度 |         |
|                      | 指標設定の考え方  | 各種事業への参加者数にて事業効果を図る。  |                          |        | ⇒      | 目標     | 12000          | 12000  | 12000   | 12000   |         |         |
|                      | 指標で表せない効果 | 市民の充足感、安心感などは数値化しにくいものである。このことを自覚した上で、市民の立場に立った運営を進める必要がある。 |                          |        |        | 実績     | 12105          | 13676  |         |         |         |         |

事務事業評価 (CHECK)

|          |                |  |   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
|----------|----------------|--|---|--|---|---|---|---------------------------|---|--------|--|
|          |                | 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)  |   | 市委託事業を多岐にわたり実施しており、必要な専門知識や資格を持った職員の人件費補助の継続、安定した事業運営は必要である。また、様々な要因や制度の狭間から公的サービスを受けられない方の支援を行うなど、行政や他機関等との連携による問題解決を担う法人として、市の財政状況も考慮しつつ、地域の人々が住み慣れたまちで生活できることについて協働で取り組んでいく必要がある。 |   |   |   |                           |   |        |  |
| 事務事業評価   | 自己判定 (担当責任者)   | 妥当性  | 目的の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。   | 4 | 合計点が<br>14~15 : S<br>10~13 : A<br>8~9 : B<br>5~7 : C<br>3~4 : D | A   | 事業成果・工夫した点<br>事業の苦勞した点・課題 | 法人と協議を重ね、法人運営状況及び個別事業実施状況を精査し、一昨年度及び昨年度に引き続き、前年度から150千円の減額に努めた。今年度は社会福祉法人指導監査の年となっており、前回の指導事項の改善状況含め、国のガイドラインに基づいて指導を行い、災害対策・地域における広域的な取組等について、新たに指摘事項として改善の指示を行った。 |        |  |
|          |                |  | 社会情勢等への対応   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>社会情勢又は行政事務に適切に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。  | 4 |   |   |                           |   |        |  |
|          |                |  | 市の関与の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。  | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|          |                | 有効性  | 事業の効果   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。  | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|          |                |  | 成果向上の可能性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。<br>市民生活や行政内部の課題解決になっていない。  | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|          |                |  | 施策への貢献度   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。  | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|          | 効率性            | 手段の最適性   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。                         | 3  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          |                | コスト効率  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>施策推進につなげている。<br>活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。                       | 3  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          |                | 市民 (受益者) 負担の適正   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 | 3  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          | 一次判定 (所属長)     | 妥当性  | 目的の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。   | 4 | 合計点が<br>14~15 : S<br>10~13 : A<br>8~9 : B<br>5~7 : C<br>3~4 : D | A   |                           |   | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。<br><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する<br><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する<br>(判断の理由)<br>地域福祉増進のために社会福祉協議会の役割は大きなものがあり、今後も連携していく必要がある。 |
|          |                |  | 社会情勢等への対応   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。<br>社会情勢又は行政事務に適切に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。   | 4 |   |   |                           |   |        |  |
|          |                |  | 市の関与の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。  | 3 |   |   |                           |   |        |  |
| 有効性      |                | 事業の効果  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。         | 4  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          |                | 成果向上の可能性   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。<br>市民生活や行政内部の課題解決になっていない。                 | 4  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          |                | 施策への貢献度  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。           | 3  |   |   |   |                           |   |        |  |
| 効率性      | 手段の最適性         | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。  | 3   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          | コスト効率          | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>施策推進につなげている。<br>活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。  | 3   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。                      | 3   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
| 所属長の課題認識 | 目的の妥当性         | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。                               | 4   | 合計点が<br>14~15 : S<br>10~13 : A<br>8~9 : B<br>5~7 : C<br>3~4 : D  | B | 所<br>属<br>長<br>の<br>課<br>題<br>認<br>識                            | 社会福祉協議会がその役割を果たすために、人件費等の補助の必要性は認めるものの、決算 (会計) 状況等を見極め、適切な補助を行なうとともに、事業の実施状況を把握する必要がある。 |                           |   |        |  |
|          | 社会情勢等への対応      | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。<br>社会情勢又は行政事務に適切に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 4   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          | 市の関与の妥当性       | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。  | 3   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
| 所属長の課題認識 | 事業の効果          | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。                              | 4   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          | 成果向上の可能性       | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。<br>市民生活や行政内部の課題解決になっていない。                                      | 4   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          | 施策への貢献度        | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。                                | 3   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
| 所属長の課題認識 | 手段の最適性         | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。  | 3   | 合計点が<br>14~15 : S<br>10~13 : A<br>8~9 : B<br>5~7 : C<br>3~4 : D  | B | 所<br>属<br>長<br>の<br>課<br>題<br>認<br>識                            | 社会福祉協議会がその役割を果たすために、人件費等の補助の必要性は認めるものの、決算 (会計) 状況等を見極め、適切な補助を行なうとともに、事業の実施状況を把握する必要がある。 |                           |   |        |  |
|          | コスト効率          | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>施策推進につなげている。<br>活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。  | 3   |  |   |   |   |                           |   |        |  |
|          | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。                      | 3   |  |   |   |   |                           |   |        |  |

|           |      |                                     |  |  |
|-----------|------|-------------------------------------|--|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。   | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。   |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。  |  |
|           |      | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。<br>H30行政評価委員会委員抽出事業<br>社会福祉協議会事業は、住民福祉の向上に必要な事業であるが、社会福祉協議会が実施する各事業の有効性、効率性を再検討すること。 |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。  |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。  |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。   |  |

|            |      |       |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
|            |      |       |

今後の方向性 (ACTION)

|                            |                          |                  |       |
|----------------------------|--------------------------|------------------|-------|
| の<br>最<br>終<br>判<br>断<br>議 | 事業の方向性                   |                  | コメント欄 |
|                            | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。        |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。       |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。        |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。     |       |



平成30年度事務事業補助シート

事務事業名

社会福祉協議会事業

事務事業の概要・計画(PLAN)の補足

事業の性格

- 独立した事業であり、このシートだけで十分事業の説明が可能である。
- 下記に掲げる事業と密接な関係があり、これらのシートと合わせてこの事業の説明が可能である。

| 事業コード | 事務事業名 | 事務事業の概要 |
|-------|-------|---------|
|       |       |         |
|       |       |         |
|       |       |         |
|       |       |         |

事業の類似性

- 独自性が強く、類似する事業は思い浮かばない。
- 下記に掲げる事業において、摘要に掲げる項目に関し類似性が認められる。

| 事業コード | 事務事業名 | 摘要 |
|-------|-------|----|
|       |       |    |
|       |       |    |
|       |       |    |

事業活動の内容・成果(DO)の補足

直接事業費(単位:千円)の内訳(説明に必要と思われる項目を列記すること)

| 直接事業費       | 36,893 | (決算額の数値を記入) |                   |
|-------------|--------|-------------|-------------------|
| 節           | 細節     | 事業費         | 摘要                |
| 負担金・補助及び交付金 |        | 36,893      | 社会福祉協議会補助金        |
|             |        |             | 法人運営事業 269,000円   |
|             |        |             | 社会福祉協議会運営補助事業     |
|             |        |             | 33,325,000円       |
|             |        |             | 福祉サービス利用援助事業      |
|             |        |             | 413,000円          |
|             |        |             | 法人後見事業 2,354,000円 |
|             |        |             | 民生児童委員協議会事業       |
|             |        |             | 532,000円          |
|             |        |             |                   |
| 上記以外の事業費合計  |        | 0           | 一般事務費、上記で書き表せないもの |

その他の補足

添付資料は用意すること

別添添付資料

- 位置図(施設の場所、作業場所など)
- パンフレット
- その他国や県が出している参考資料
- その他(独自に作成した概要、説明資料)
- 特になし

参考データ

- 伊予市ホームページ  
福祉 (検索ワード)
- その他参考となるホームページ  
伊予市社会福祉協議会 (検索ワード)

事務事業の概要・計画 (PLAN)

|                |  |      |              |                   |                                       |       |   |
|----------------|--|------|--------------|-------------------|---------------------------------------|-------|---|
| 事務事業名          | 声の広報発行事業   | 会計名称 | 一般会計         |                   | 担当課                                   | 福祉課   |   |
|                |  | 予算科目 | 3 款 1 項 14 目 | 事業番号              | 6210                                  | 所属長名  | 泉一人   |
| 事業評価の有無        | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) |      |              |                   | 担当責任者名                                | 小笠原聡子 |   |
| 法令根拠等          | 障害者総合支援法 伊予市声の広報等発行事業実施要綱  |      |              |                   | 実施期間                                  | 【開始】  | 平成 17 年度  |
| 総合計画での位置付け     | 健康福祉都市の創造<br>心の通った社会福祉の推進  |      |              |                   |                                       | 【終了】  | 平成 年度(予定)<br><input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | だれもが安心して自分らしく暮せるために、障がいサービスを提供する。  |      |              | 事業の対象             | 文字による情報入手が困難な人                        |       |   |
| 事業の目的          | 文字による情報の入手が困難な人のために、音声による情報提供を行う。  |      |              | 昨年度の課題            |                                       |       |   |
| 事業の内容 (整備内容)   | 広報いよしをカセットテープに音声録音して、公民館等に配付する。(全504巻:「月42巻×12か月」)                                       |      |              | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | 現在使用している媒体(カセットテープ)に代わる媒体としてCDの使用を検討。 |       |   |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円)       |           |                                  |                          |        |       |       | 事業活動の実績 (活動指標) |         |         |         |        |         |
|----------------------|-----------|----------------------------------|--------------------------|--------|-------|-------|----------------|---------|---------|---------|--------|---------|
| 項目                   | 前年度決算     | 当初予算額                            | 補正予算額                    | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額   | 項目             | 単位      | 29 年度実績 | 30 年度予定 | 9月末の実績 | 30 年度実績 |
| 直接事業費                | 100       | 100                              | 0                        | 0      | 0     | 100   | 声の広報配布箇所数      | か所      | 21      |         | 21     | 21      |
| 財源内訳                 |           |                                  |                          |        |       |       |                |         |         |         |        |         |
| 国庫支出金                | 43        | 30                               | 0                        | 0      | 0     | 31    |                |         |         |         |        |         |
| 県支出金                 | 22        | 15                               | 0                        | 0      | 0     | 16    |                |         |         |         |        |         |
| 地方債                  |           | 0                                | 0                        | 0      | 0     | 0     |                |         |         |         |        |         |
| その他                  |           | 0                                | 0                        | 0      | 0     | 0     |                |         |         |         |        |         |
| 一般財源                 | 35        | 55                               | 0                        | 0      | 0     | 53    |                |         |         |         |        |         |
| 職員の人工(にんく)数          | 0.02      | 0.02                             |                          |        |       | 0.02  |                |         |         |         |        |         |
| 1人工当たりの人件費単価         | 8,017     | 7,982                            |                          |        |       | 7,982 |                |         |         |         |        |         |
| ※ 直接事業費+人件費          | 260       | 260                              |                          |        |       | 260   |                |         |         |         |        |         |
| 主な実施主体               | 直接実施      |                                  | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) |        |       |       |                |         |         |         |        |         |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) |           |                                  |                          |        | 31 年度 | 32 年度 | 33 年度          | 34 年度   | 35 年度   | 5年間の合計  |        |         |
|                      |           |                                  |                          |        | 100   | 100   | 100            | 100     | 100     | 500     |        |         |
| 成果指標                 | 指標        | 声の配付箇所数                          | 単位                       | 区分年度   | 29 年度 | 30 年度 | 31 年度          | 目標 毎 年度 |         |         |        |         |
|                      | か所        |                                  | 目標                       |        | 18    | 20    | 20             | 20      |         |         |        |         |
|                      | 指標設定の考え方  | 視覚障がい者等が耳から情報を入手するための配付先数を指標とした。 | ⇒                        |        | 実績    | 21    | 21             |         |         |         |        |         |
|                      | 指標で表せない効果 |                                  |                          |        |       |       |                |         |         |         |        |         |

事務事業評価 (CHECK)

| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) |                | カセットテープに代わる媒体として、CDを使用することを検討している。   |   |   |   |   |   |                           |   |        |  |
|---------------------------------|----------------|--|---|---|---|---|---|---------------------------|---|--------|--|
| 事務事業評価                          | 自己判定 (担当責任者)   | 妥当性  | 目的の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。  | 3 | 合計点が<br>14~15 : S<br>10~13 : A<br>8~9 : B<br>5~7 : C<br>3~4 : D | B | 事業成果・工夫した点<br>事業の苦労した点・課題 | 障害者相談支援員等に周知をお願いした結果、個人的に読みたい文章をテープに吹き込んでもらう人が少しずつではあるが増えてきている。 |        |  |
|                                 |                |  | 社会情勢等への対応   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。  | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                |  | 市の関与の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。   | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                | 有効性  | 事業の効果   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。  | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                |  | 成果向上の可能性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。<br>市民生活や行政内部の課題解決になっていない。   | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                |  | 施策への貢献度   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。<br>目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。 | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|                                 | 効率性            | 手段の最適性   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>施策推進につなげることができない。<br>現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。                  | 3   |   |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                | コスト効率  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。<br>投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。<br>コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。      | 3   |   |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                | 市民 (受益者) 負担の適正   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担は適正と認める。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。       | 3   |   |   |   |                           |   |        |  |
|                                 | 一次判定 (所属長)     | 妥当性  | 目的の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。  | 3 | 合計点が<br>14~15 : S<br>10~13 : A<br>8~9 : B<br>5~7 : C<br>3~4 : D | B |                           |   | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。<br><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する<br><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する<br>(判断の理由)<br>視覚障害者にとって市政を発進する手段であり、まだまだニーズもあることから、継続と判断する。 |
|                                 |                |  | 社会情勢等への対応   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。<br>社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。                   | 3 |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                |  | 市の関与の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。   | 3 |   |   |                           |   |        |  |
| 有効性                             |                | 事業の効果  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。  | 3   |   |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                | 成果向上の可能性   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。<br>市民生活や行政内部の課題解決になっていない。   | 3   |   |   |   |                           |   |        |  |
|                                 |                | 施策への貢献度  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。<br>目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。 | 3   |   |   |   |                           |   |        |  |
| 効率性                             | 手段の最適性         | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>施策推進につなげることができない。<br>現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。             | 3   |   |   |   |   |                           |   |        |  |
|                                 | コスト効率          | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。<br>投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。<br>コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 3   |   |   |   |   |                           |   |        |  |
|                                 | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5<br>4<br>3<br>2<br>1<br>満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担は適正と認める。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。  | 3   |   |   |   |   |                           |   |        |  |
| 評価                              | 所属長            | 課題認識   | 市政情報を入手する方法について、視覚障害者から意見を聞き、記録媒体を含め検討していく必要がある。  |   |   |   |   |                           |   |        |  |

|           |      |                                     |   |  |
|-----------|------|-------------------------------------|---|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。                            | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。  |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。                           |  |
|           |      | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。<br>H30行政評価委員会委員抽出事業 |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。                           |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。                           |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。                                |  |

|            |      |       |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
|            |      |       |

今後の方向性 (ACTION)

|                            |                          |                  |       |
|----------------------------|--------------------------|------------------|-------|
| の<br>最<br>終<br>判<br>断<br>議 | 事業の方向性                   |                  | コメント欄 |
|                            | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。        |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。       |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。        |       |
|                            | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。     |       |

平成30年度事務事業補助シート

事務事業名

声の広報等発行事業

事務事業の概要・計画(PLAN)の補足

事業の性格

- 独立した事業であり、このシートだけで十分事業の説明が可能である。
- 下記に掲げる事業と密接な関係があり、これらのシートと合わせてこの事業の説明が可能である。

| 事業コード | 事務事業名 | 事務事業の概要 |
|-------|-------|---------|
|       |       |         |
|       |       |         |
|       |       |         |
|       |       |         |
|       |       |         |

事業の類似性

- 独自性が強く、類似する事業は思い浮かばない。
- 下記に掲げる事業において、摘要に掲げる項目に関し類似性が認められる。

| 事業コード | 事務事業名 | 摘要 |
|-------|-------|----|
|       |       |    |
|       |       |    |
|       |       |    |

事業活動の内容・成果(DO)の補足

直接事業費(単位:千円)の内訳(説明に必要と思われる項目を列記すること)

| 直接事業費      | 100 | (決算額の数値を記入) |                   |
|------------|-----|-------------|-------------------|
| 節          | 細節  | 事業費         | 摘要                |
| 委託料        |     | 100         | 委託料(伊予市音読グループ)    |
|            |     |             |                   |
|            |     |             |                   |
|            |     |             |                   |
|            |     |             |                   |
|            |     |             |                   |
|            |     |             |                   |
|            |     |             |                   |
|            |     |             |                   |
| 上記以外の事業費合計 |     | 0           | 一般事務費、上記で書き表せないもの |

その他の補足

添付資料は用意すること

別添添付資料

- 位置図(施設の場所、作業場所など)
- パンフレット
- その他国や県が出している参考資料
- その他(独自に作成した概要、説明資料)
- 特になし

参考データ

- 伊予市ホームページ  
 (検索ワード)
- その他参考となるホームページ  
 (検索ワード)

事務事業の概要・計画 (PLAN)

|                |   |      |             |                   |   |      |   |
|----------------|---|------|-------------|-------------------|---|------|---|
| 事務事業名          | 生活困窮者自立支援事業   | 会計名称 | 一般会計        |                   | 担当課   | 福祉課  |   |
|                |   | 予算科目 | 3 款 1 項 1 目 | 事業番号              | 894   | 所属長名 | 泉一人   |
| 事業評価の有無        | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)  |      |             |                   | 担当責任者名  | 石崎恵美 |   |
| 法令根拠等          | 生活困窮者自立支援法  |      |             |                   | 実施期間  | 【開始】 | 平成 27 年度  |
| 総合計画での位置付け     | 健康福祉都市の創造<br>心の通った社会福祉の推進   |      |             |                   |   | 【終了】 | 平成 年度(予定)<br><input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 地域の実情に応じた支援体制や支援メニューを作り上げていくため、社会福祉法人に本事業を委託することにより、地域と行政それぞれが補完し合いながら、ネットワーク組織の構築を進める。   |      |             | 事業の対象             | 生活保護を受給していないが、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者。                           |      |   |
| 事業の目的          | 1生活に困窮している人に対し、生活保護受給に至る前の段階で自立に向けた支援を行うことによって、課題が複雑化・深刻化する前に自立の促進を図る。2支援を必要とする住民が抱える多様で複合的な地域生活課題について、福祉関係者や地域住民、関係機関との連携等による解決を図ることができる地域づくりを目指す。 |      |             | 昨年度の課題            | 市民に知られていない現状がある。民生委員や高齢者見守り委員に制度の周知を図るとともに、11月設置の福祉丸ごと相談窓口と社会福祉協議会が連携して進めていくこと。 |      |   |
| 事業の内容 (整備内容)   | ○自立相談支援事業：就労その他の自立に関する相談支援、情報提供、事業利用のための計画の作成など。<br>○住居確保給付金の支給：離職により住宅を失った生活困窮者に対し、家賃相当の「住宅確保給付金」を有期で支給。   |      |             | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | 自立相談支援機関と市の担当者による支援会議に福祉まるごと相談窓口の担当者も参加し、情報を共有したうえで支援に当たった。                     |      |   |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円)      |                  |  |                          |        |                                  |       | 事業活動の実績 (活動指標) |       |         |         |        |         |  |
|---------------------|------------------|--|--------------------------|--------|----------------------------------|-------|----------------|-------|---------|---------|--------|---------|--|
| 項目                  | 前年度決算            | 当初予算額  | 補正予算額                    | 継続費その他 | 翌年度繰越                            | 決算額   | 項目             | 単位    | 29 年度実績 | 30 年度予定 | 9月末の実績 | 30 年度実績 |  |
| 直接事業費               | 8,161            | 8,339  | 0                        | 0      | 0                                | 8,339 | 住居確保給付金申込件数    | 件     | 0       | 0       | 0      | 0       |  |
| 財源内訳                |                  |  |                          |        |                                  |       |                |       |         |         |        |         |  |
| 国庫支出金               | 6,120            | 6,254  | 0                        | 0      | 0                                | 6,254 |                |       |         |         |        |         |  |
| 県支出金                |                  | 0  | 0                        | 0      | 0                                | 0     |                |       |         |         |        |         |  |
| 地方債                 |                  | 0  | 0                        | 0      | 0                                | 0     | 生活困窮者相談件数      | 件     | 37      | 40      | 20     | 34      |  |
| その他                 |                  | 0  | 0                        | 0      | 0                                | 0     |                |       |         |         |        |         |  |
| 一般財源                | 2,041            | 2,085  | 0                        | 0      | 0                                | 2,085 |                |       |         |         |        |         |  |
| 職員の人工(にんく)数         | 0.42             | 0.51   |                          |        |                                  | 0.00  |                |       |         |         |        |         |  |
| 1人工当たりの人件費単価        | 8,017            | 7,982  |                          |        |                                  | 7,982 |                |       |         |         |        |         |  |
| ※ 直接事業費+人件費         | 11,528           | 12,410   |                          |        |                                  | 8,339 |                |       |         |         |        |         |  |
| 主な実施主体              | 社会福祉法人伊予市社会福祉協議会 |  | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) |        | 委託料(1、2ともに必須事業であるため、国の負担割合は4分の3) |       |                |       |         |         |        |         |  |
| 向こう5年間の直接事業費の推移(千円) |                  |  |                          |        | 31 年度                            | 32 年度 | 33 年度          | 34 年度 | 35 年度   | 5年間の合計  |        |         |  |
|                     |                  |  |                          |        | 8,503                            | 8,503 | 8,503          | 8,503 |         | 34,012  |        |         |  |
| 成果指標                | 指標               | 相談件数   | 単位                       | ⇒      | 区分年度                             | 29 年度 | 30 年度          | 31 年度 | 目標      | 毎 年度    |        |         |  |
|                     | 指標設定の考え方         | 生活困窮から脱却することを目指しているが、まずは生活困窮者が活用できる制度・サービスの利用を積極的に促し、生活再建へ結びつける必要があることから、相談件数を成果指標とする。 |                          |        | 目標                               | 40    | 40             | 40    | 40      |         |        |         |  |
|                     | 指標で表せない効果        | 就労支援による就労、その後の就労継続のフォローアップ等  |                          |        | 実績                               | 37    | 34             |       |         |         |        |         |  |

事務事業評価 (CHECK)

| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) |                | 事業実施については委託によるほか、市の直営も認められている。国により任意事業である家計相談支援事業及び就労準備支援事業について、平成33年度までの3年間に集中的に実施体制の整備を進め、平成34年度を目標に両事業の完全実施を目指すこととされたことから、今後の実施形態を検討が必要がある。 |   |   |  |   |   |   |                           |  |  |
|---------------------------------|----------------|--|---|---|--|---|---|---|---------------------------|--|--|
| 事務事業評価                          | 自己判定 (担当責任者)   | 妥当性  | 目的の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。<br>概ね、施策の目的に沿った事業である。   | 3 | 合計点が<br>14~15 : S<br>10~13 : A<br>8~9 : B<br>5~7 : C<br>3~4 : D | A | 事業成果・工夫した点<br>事業の苦勞した点・課題 | 相談支援機関を含めた支援会議に、11月から窓口を開設した福祉まるごと相談窓口の担当者も参画し、情報を共有したうえで支援に当たった。  |  |
|                                 |                |  | 社会情勢等への対応   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。<br>社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 | 4 |   |   |                           |  |  |
|                                 |                |  | 市の関与の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。            | 3 |   |   |                           |  |  |
|                                 |                | 有効性  | 事業の効果   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。  | 3 |   |   |                           |  |  |
|                                 |                |  | 成果向上の可能性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。         | 3 |   |   |                           |  |  |
|                                 |                |  | 施策への貢献度   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。<br>施策推進に向け、効果を認めることができる。                        | 3 |   |   |                           |  |  |
|                                 | 効率性            | 手段の最適性   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 施策推進につがっていない。<br>現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。                 | 2  |   |   |   |                           |  |  |
|                                 |                | コスト効率  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。<br>投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。<br>コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 2  |   |   |   |                           |  |  |
|                                 |                | 市民 (受益者) 負担の適正   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 | 3  |   |   |   |                           |  |  |
|                                 | 一次判定 (所属長)     | 妥当性  | 目的の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。<br>概ね、施策の目的に沿った事業である。   | 4 | 合計点が<br>14~15 : S<br>10~13 : A<br>8~9 : B<br>5~7 : C<br>3~4 : D | A |                           | ■ 事業継続と判断する。<br><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する<br><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する<br>(判断の理由)<br>生活保護申請に至る前段での支援を行なうことにより自立した生活が送れるようするための事業であり、継続の必要があると判断する。 |  |
|                                 |                |  | 社会情勢等への対応   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | この事業では施策の目的を果たすことができない。<br>社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。<br>社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 | 4 |   |   |                           |  |  |
|                                 |                |  | 市の関与の妥当性  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。<br>市が積極的に関与・実施すべき事業である。<br>今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。            | 3 |   |   |                           |  |  |
| 有効性                             |                | 事業の効果  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。<br>市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。<br>市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。           | 3  |   |   |   |                           |  |  |
|                                 |                | 成果向上の可能性   | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。<br>既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。<br>今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。                  | 3  |   |   |   |                           |  |  |
|                                 |                | 施策への貢献度  | 5<br>4<br>3<br>2<br>1   | 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。<br>施策推進への貢献は多大である。<br>施策推進に向け、効果を認めることができる。                                 | 3  |   |   |   |                           |  |  |
| 効率性                             | 手段の最適性         | 5<br>4<br>3<br>2<br>1  | 施策推進につがっていない。<br>現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。<br>最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。                 | 3   |  |   |   |   |                           |  |  |
|                                 | コスト効率          | 5<br>4<br>3<br>2<br>1  | 活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。<br>投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。<br>コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 3   |  |   |   |   |                           |  |  |
|                                 | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5<br>4<br>3<br>2<br>1  | 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。<br>他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 | 3   |  |   |   |   |                           |  |  |
| 評価                              | 所属長の課題認識       | 相談案件の内容、支援方針、進捗状況等について情報共有を継続的に行なうとともに、新しく開設した「福祉まるごと相談窓口」との役割分担を明確にする必要がある。   |   |   |  |   |   |   |                           |  |  |

|           |      |                                     |  |  |
|-----------|------|-------------------------------------|--|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。   | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。   |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。  |  |
|           |      | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。<br>低評価のため行政評価委員会に諮る。<br>生活保護に陥らないためにも必要な事業であり、事業継続と判断する。 |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。  |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。  |  |
|           |      | <input type="checkbox"/>            | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。   |  |

|            |      |       |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
|            |      |       |

今後の方向性 (ACTION)

|        |                          |                  |       |
|--------|--------------------------|------------------|-------|
| の経営者判断 | 事業の方向性                   |                  | コメント欄 |
|        | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。        |       |
|        | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。       |       |
|        | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 |       |
|        | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。        |       |
|        | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。     |       |



平成30年度事務事業補助シート

事務事業名

生活困窮者自立支援事業

事務事業の概要・計画(PLAN)の補足

事業の性格

- 独立した事業であり、このシートだけで十分事業の説明が可能である。
- 下記に掲げる事業と密接な関係があり、これらのシートと合わせてこの事業の説明が可能である。

| 事業コード | 事務事業名 | 事務事業の概要 |
|-------|-------|---------|
|       |       |         |
|       |       |         |
|       |       |         |
|       |       |         |

事業の類似性

- 独自性が強く、類似する事業は思い浮かばない。
- 下記に掲げる事業において、摘要に掲げる項目に関し類似性が認められる。

| 事業コード | 事務事業名 | 摘要 |
|-------|-------|----|
|       |       |    |
|       |       |    |
|       |       |    |

事業活動の内容・成果(DO)の補足

直接事業費(単位:千円)の内訳(説明に必要なと思われる項目を列記すること)

| 直接事業費      | 8,339 | (決算額の数値を記入) |                   |
|------------|-------|-------------|-------------------|
| 節          | 細節    | 事業費         | 摘要                |
| 委託料        |       | 8,339       | 運営委託料(社会福祉協議会)    |
|            |       |             |                   |
|            |       |             |                   |
|            |       |             |                   |
|            |       |             |                   |
|            |       |             |                   |
|            |       |             |                   |
|            |       |             |                   |
| 上記以外の事業費合計 |       | 0           | 一般事務費、上記で書き表せないもの |

その他の補足

添付資料は用意すること

別添添付資料

- 位置図(施設の場所、作業場所など)
- パンフレット
- その他国や県が出している参考資料
- その他(独自に作成した概要、説明資料)
- 特になし

参考データ

- 伊予市ホームページ  
福祉課 (検索ワード)
- その他参考となるホームページ  
伊予市社会福祉協議会 (検索ワード)



## 外部評価に付された事務事業一覧（スケジュール）

伊予市行政評価委員会  
令和元年7月31日現在

| 番号 | 資料 | 事務事業名               | 部門名      | 備考                   | 日程                               |
|----|----|---------------------|----------|----------------------|----------------------------------|
| 1  | ○  | 行政評価運用事業            | 未来づくり戦略室 | 委員選定                 | 第2回審議<br>R1. 7. 31(水)            |
| 2  | ○  | 移住・定住推進事業           | 未来づくり戦略室 | 二次判定（重要）             |                                  |
| 3  | ○  | 地域活力創造事業            | 総務課      | H29外部評価・低評価          | 4階大会議室                           |
| 4  | ○  | 防災訓練事業              | 危機管理課    | 委員選定                 |                                  |
| 5  | ○  | 自主防災組織等育成事業         | 危機管理課    | 委員選定                 | 第3回審議<br>R1. 8. 7(水)             |
| 6  | ○  | （国保）保健衛生普及事業        | 市民課      | 委員選定                 |                                  |
| 7  | ○  | 社会福祉協議会事業           | 福祉課      | 委員選定                 |                                  |
| 8  | ○  | 声の広報発行事業            | 福祉課      | 委員選定                 | 4階大会議室                           |
| 9  | ○  | 生活困窮者自立支援事業         | 福祉課      | H30外部評価・低評価          |                                  |
| 10 |    | （介護）介護保険認定事務        | 長寿介護課    | 委員選定                 | 第4回審議<br>R1. 9. 4(水)             |
| 11 |    | 敬老事業                | 長寿介護課    | 低評価                  |                                  |
| 12 |    | ふれあいプラザ運営事業         | 長寿介護課    | 二次判定(縮小)・低評価         | 4階大会議室                           |
| 13 |    | デイサービスセンター運営事業      | 長寿介護課    | 低評価                  |                                  |
| 14 |    | 三世代交流拠点施設運営事業       | 長寿介護課    | 低評価                  | 第5回審議<br>R1. 9. 18(水)            |
| 15 |    | （介保）在宅高齢者家族介護手当支給事業 | 長寿介護課    | 低評価                  |                                  |
| 16 |    | 戸別所得補償制度推進事業        | 農業振興課    | 低評価                  | 4階大会議室                           |
| 17 |    | 中山農産加工場管理運営事業       | 農業振興課    | H30外部評価・二次判定(縮小)・低評価 |                                  |
| 18 |    | 県営ため池等整備事業          | 農林水産課    | 委員選定                 | 4階大会議室                           |
| 19 |    | 林業成長産業化総合対策交付金事業    | 農林水産課    | 委員選定                 |                                  |
| 20 |    | 車両基地・貨物駅周辺整備対策事業    | 都市住宅課    | 委員選定                 |                                  |
| 21 |    | 公園管理事業              | 都市住宅課    | 委員選定                 | 第6回審議<br>R1. 10. 2(水)            |
| 22 |    | がけ崩れ防災対策事業          | 土木管理課    | 委員選定                 |                                  |
| 23 |    | 急傾斜地崩壊対策事業          | 土木管理課    | 委員選定                 | 4階大会議室                           |
| 24 |    | 特産品センター管理運営事業       | 経済雇用戦略課  | 二次判定(縮小)・低評価         |                                  |
| 25 |    | 遊栗館管理運営事業           | 経済雇用戦略課  | 二次判定(縮小)・低評価         | 4階大会議室                           |
| 26 |    | 小学校空気調和設備設置事業       | 学校教育課    | 委員選定・二次判定(重要)        |                                  |
| 27 |    | 中学校空気調和設備設置事業       | 学校教育課    | 委員選定・二次判定(重要)        |                                  |
|    |    | 外部評価意見確定            | /        | /                    | 第7回審議<br>R1. 10. 16(水)<br>4階大会議室 |